



Fig. 2. Seed of *Sagina decumbens* subsp. *decumbens* from Takasaki, Gunma Pref., central Honshu, Japan (T. Ohmori 7059). Scale indicates 0.1 mm.

引用文献

- Crow G. E. 2005. *Sagina*. In: Flora of North America Editorial Committee (ed.), Flora of North America North of Mexico. 5: 140–147. Oxford University Press, New York.
- 枚方いきもの調査会植物部会編 2007. 枚方市の植物 2002–2006 一枚方いきもの調査会の記録ー. 111 pp. 枚方いきもの調査会植物部会, 枚方.
- 北河内自然愛好会編 2004. 北河内植物目録. 150 pp. 北河内自然愛好会, 大東.

(群馬県立自然史博物館
Gunma Museum of Natural History
1674-1, Kami-Kuroiwa,
Takaoka, Gunma, 370-2345 JAPAN)
e-mail: ohmori@gmnh.pref.gunma.jp

J. Jpn. Bot. 85: 194–196 (2010)

学名著者の記録 1. 大橋 広, 鈴木貞雄, 館岡亜緒 (大橋広好)

Hiro Yoshi OHASHI: Records of Authors of Plant Names 1. Hiro Ohashi, Sadao Suzuki and Tuguo Tateoka

Summary: Records of authors of plant names are necessary for establishment of correct names as indicated in the Recommendation 9A in ICBN Vienna Code 2006 (McNeill et al. 2006). A standard form of the author names is adopted in ICBN from Authors of Plant Names (Brummitt and Powell 1992) and a standing column for new records is available in the website “IPNI Author Search” for continuous collections of plant name authors. In Japan records of plant-name authors have usually been published in several publications without standard forms or styles. Records of Japanese authors of plant names are often hard to find when necessary. In this note, the Japanese plant name authors who are insufficiently recorded in Japan as well as in “IPNI Author Search” are supplied here. This record includes: Japanese name (SURNAME + Forename) in Chinese characters, Forename + SURNAME in Romanized characters, (date of birth and death), [Plant groups

studied in the same abbreviation with Brummitt and Powell (1992)], Standard form as the plant name author, Biography and major works, Example(s) of names published, Herbarium keeping the type and collection, and Information source. A Note related to the person is added when necessary. This first report includes 1) Hiro OHASHI, 2) Sadao SUZUKI and 3) Tuguo TATEOKA.

生物の学名とその著者名とは別のカテゴリーの名称だが、両方は切り離せない存在である。種以下の分類群では学名と著者名とは一緒に表記される。学名からの情報や検索のためばかりではなく、学名の安定にも著者名が必要で、ウィーン規約 (McNeill et al. 2006, 日本植物分類学会国際植物命名規約邦訳委員会 2007) 勧告 9A では正しいタイプ選定は著者についての情報が必要であるとしている。学名の著者表記についてウィーン規

約 46.1 条は「出版物、とりわけ分類学および命名法を取り扱う出版物においては、学名の著者を引用することが望ましい」として、正しい著者の選定を多くの実例を挙げて説明している。著者名は正確かつ固有で、国際的に統一されていなければならない。勧告 46A. 付記 1 では Brummitt and Powell 1992. *Authors of Plant Names* の著者名表記が国際的な基準と認められ、その後も更新されていることが明記されている。最新版はインターネット “IPNI Author Search” [<http://www.ipni.org:80/ipni/authorsearchpage.do>] で見ることができる。

日本人の学名著者については古くは牧野富太郎・清水藤太郎「植物学名辞典」(1935) の「著者名表」に含まれるほか、檜山庫三「花草木」(1951) の「日本人命名者一覧表」がある。大井次三郎「日本植物誌」(1953) の「日本植物命名者表」で初めて生没年、専門分野が加えられた。大場秀章「植物文化人物辞典」(2007) に含まれている学名著者には略歴もある。「新牧野日本植物図鑑」(2008) の前川・大橋「学名解説」には学名著者や学名として献名されている日本人の情報が多く含まれている。非維管束植物の関係者についてはデータが少ない。Kurokawa (1998) は Brummitt and Powell (1992) の表記形式で日本産地衣類の学名著者表記を統一し、新しい著者やデータも加えて整理したが、有用な記録である。

日本では学名著者リストはあってもその記録は不完全で、不十分である。植物命名規約の趣旨に即して学名著者がある程度一定の規格で、多くの人が見ることでできる出版物に、組織的かつ継続的に記録する必要がある。また、学名上の便宜のためばかりでなく、分類学史を知る上からも先人の記録を補充し、整備しておくべきであろうと思う。ローカルな同好誌や出版物などの個人記録はまず目に入らない。日本植物学会 (1982) 「日本の植物学百年の歩み」のなかで木村陽二郎と金井弘夫は「明治以後の物故植物研究者の伝記文献」という労作をまとめており、ここには多くの学名著者が含まれているが、それらの著者について引用文献の中でさえ探し出すのに困難なものが多い。

実際に学名著者故人の記録を探すのはなかなか困難である。訃報は書かれていても人目につにくい出版物であることが多く、内容も故人のエピソードが主であることが多い。そのうえ最近の日本では、個人情報保護法の適用のため著者の元所

属機関から著者の略歴を聞き出すことも難しい。このような状況の下ではあるが、主に日本人を対象とし、その人の植物学名に関する情報を中心として本誌に今後継続的に記録を残したいと考え、まず第一歩として、この記録をまとめてみた。この「学名著者の記録」をできればシリーズとして続けたいと思うので、関心のある方々のご協力とご投稿をお願いしたい。

記録項目は Brummitt and Powell (1992) にならって氏名、氏名ローマ字表記、生没年月日、[専門分野略号] (A: 藻類, B: コケ類, C: 隠花植物, F: 化石, M: 菌類・地衣類, P: シダ類, S: 種子植物)、学名著者としての表記、略歴、発表学名の一部、標本所蔵ハーバリウム、情報源、および付記をつけた。今回は大橋 広、鈴木貞雄、館岡亜緒氏について記録しておきたい。

1. 大橋 広 Hiro OHASHI (1882.3.18–1973.2.20) [A], Ohashi.

略歴：岡山県倉敷市出身、1909 年日本女子大学教育学部博物科卒業、博物科生物学助手に就任。1922–1926 年シカゴ大学大学院で植物学専攻、C. J. Chamberlain の指導を受け、緑藻類サヤミドロの細胞学的研究中に 1 新種を発表した。1926 年シカゴ大学より PhD 学位受領。学位論文 Hiro Ohashi 1930. Cytological study of *Oedogonium*. Bot. Gaz. 40(2): 177–197. 帰国後は教育者として活躍した。1927 年日本女子大学教授 (家庭植物学および家庭微生物学講座)、1947–56 年同学長。1956 年日本女子大学名誉教授。

発表学名：*Oedogonium nebraskense* Ohashi in Bot. Gaz. 82: 207–214 (1926).

標本：収集標本は多分ない。

出典：*Oedogonium nebraskensis*, sp. nov. Bot. Gaz. 82: 207–214. 大橋 広遺稿編纂会 1974. 大橋広遺稿集. 560 pp.

付記：Brummit and Powell (1992) では大橋広の専門分野は AS だが、S は大橋広好である Ohashi を著者名とする学名を混同したもので、A のみが正しい。

2. 鈴木貞雄 Sadao SUZUKI (1909–1998.2.26) [S], Sad. Suzuki.

略歴：福島県西白河郡表郷村出身。1932 年広島高等師範学校理科第三部卒業、1936 年広島文理科大学生物学科卒業。鹿児島県立川辺中学、富

山県立高岡中学などを歴任。1944年栃木師範学校教授(1947年公職追放)、1956年栃木県立宇都宮中央女子高校教諭。1963年理学博士(広島大学)。1965年玉川大学農学部教授。福島県植物誌(1987)を監修した。

発表学名: *Pleiblastus pseudosasaoides* Sad. Suzuki, *Sasa akiuensis* (Sad.Suzuki) Sad.Suzuki, *Sasaella sadoensis* (Nakai) Sad.Suzuki, etc.

標本: 収集標本は東北大学植物園津田記念館TUSに寄贈された。タイプ標本はTIとTUSにある。TUSタイプ標本はOhashi et al. (2001)参照。

出典: 鈴木貞雄(編著) 1971. 竹と笹入門. 池田書店。「ササの葉」。聞き語り—昭和の天皇と私 13. 朝日新聞栃木県版。1989.1.21. 馬場 篤, 山田恒人, 薄葉 満, 菅野修三. 鈴木貞雄先生追悼文。フロラ福島(鈴木貞雄先生追悼号) No. 16 (1998)。

付記: 鈴木貞雄の父貞次郎(1887–1967)は洋品店を経営, アマチュア植物研究者として活躍し, 福島県植物誌の先駆者, 多くの新植物を発見し, *Sasa suzukii* Nakai に名が残る。同氏については「福島県植物誌」に詳しい。その収集標本(タイプを含む)もTUSにある。貞雄は植物生態学専攻であったが, 1950年頃から父を助けてタケ類の分類に転向したと述べている。

3. 館岡 亜緒 Tuguo TATEOKA (1931.2.10–1994.2.26) [S], Tateoka.

略歴: 秋田県南秋田郡昭和町出身。東京都立大学第一期生で1953年理学部生物学科卒業, 形態学研究室(加崎英男教授)に所属した。1953年国立遺伝学研究所に勤務, カナダ・モントリオール大学 A. Löve のもとに留学, 1962年木原生物学研究所, 1964年国立科学博物館植物研究部。同館植物研究部第四研究室室長, 1993年同館退職。著書に「イネ科植物の解説。1959. 明文堂, 東京」と「植物の種分化と分類。1983. 養賢堂, 東京」がある。

発表学名: *Porteresia* Tateoka in Bull. Nat. Sci. Mus., Tokyo 8: 406 (1965). *Agrostis tateyamensis* Tateoka Bot. Mag. (Tokyo) 88: 84 (1975). *Erioneuron avenaceum* (Kunth) Tateoka in Am. J. Bot. 48: 572 (1961). *Poa acroleuca* Steud. var. *ryukyuensis* Koba & Tateoka J. Jap. Bot. 67: 205 (1992), etc.

標本: タイプを含め, 収集標本はTNSに所蔵される。

出典: 主に金井弘夫氏よりの私信による。

付記: 館岡亜緒(点あり)とも表記するという。Brummitt and Powell (1992), “IPNI Author Search” (Dec. 2009) では Tsuguo Tateoka と誤記されている。

大橋 広博士のご経歴は駒嶺 穆博士(東北大学名誉教授)が日本女子大教授の時に調べて下さった。学名著者としてのお名前を存じ上げる前に私は自分の学名著者名を Ohashi としていたので, 大橋 広博士と混同されていたことがある。鈴木貞雄博士のご経歴はいわき市湯澤陽一博士(福島県植物研究会会長)と上野雄規氏(元仙台市野草園園長)にご協力をいただいた。館岡亜緒博士は国立科学博物館本館や新宿分館におられた頃には時々東大に標本を調べにこられ, しばしばイネ科の研究の話をうかがった。日本のイネ科植物の代表的な細胞分類学研究者の一人であった。筑波に移転してからのご消息は分からずにいたが, 当時国立科学博物館植物研究部長であった金井弘夫博士(国立科学博物館名誉館員)が調べて下さった。本記録をまとめるにあたりご援助くださった黒川 追, 駒嶺 穆, 金井弘夫, 湯澤陽一, 上野雄規, 大橋一晶の各氏にお礼申し上げます。

引用文献

- Brummitt R. K. and Powell C. E. 1992. Authors of Plant Names. 732 pp. Royal Botanic Gardens, Kew.
- Kurokawa S. 1998. Authors of Japanese lichen names. Bull. Nat. Sci. Mus. ser. B, 24: 15–24.
- McNeill J., Barrie F. R., Burdet H.M., Demoulin V., Hawksworth D. L., Marhold D., Nicolson D. H., Prado J., Silva P. C., Skog J. E., Wiersema J. H., and Turland N.J. 2006. International Code of Botanical Nomenclature (Vienna Code). Koeltz Scientific Books, Koenigstein.
- 日本植物分類学会国際植物命名規約邦訳委員会(大橋広好, 永益英敏 編集) 2007. 国際植物命名規約(ウィーン規約) 2006. 日本語版. 日本植物分類学会. 208 pp.
- Ohashi H., Yonekura K. and Nemoto T. (2001): A list of the type specimens in the Herbaria of the Biological Institute (TUS) and Botanical Garden (TUSG), Tohoku University, Sendai, Japan. Sci. Rep. Tohoku Univ. 4th ser. (Biol.) 40(4): 397–444.

(東北大学植物園津田記念館
Botanical Gardens, Tohoku University,
Sendai 980-0862 JAPAN)
e-mail: ohashi@mail.tains.tohoku.ac.jp